

「三重」発祥の地 杖衝坂

博学 GAKU 博物館 で学ぶ

<12>

四日市あすなろう鉄道が運行を開始してはや二カ月。この鉄道の内部線は、四日市―内部間を旧東海道に沿うように走っていて、東海道を探訪するのにいい。

そこで、この「博学」コーナーも、今回と次回の二回にわたって、内部線沿線にある博物館を訪ねて東海道を旅してみたい。今回は終点内部駅から歩いて約十分、古民家を活用した手づくりの博物館、うつべ町かど博物館を紹介しよう。

◆「わが足三重の…」
うつべ町かど博物館は、旧東海道・杖衝坂の中ほどにある。古くから急坂として知られた坂だ。

古事記の伝承によると、ヤマトタケルノミコトが東国遠征から大和へ帰る途中に病に侵され、この急坂を差し掛か

つた時に腰の剣をつえ代わりた。さらにこの坂で「わが足三重の勾りなして甚く疲れた」と言った伝承から、この地を「三重」と呼ぶようになったとされる。明治後この地名が県名となった。杖衝坂が「三重」の地名の発祥ともいえるよう。

◆伝承に由来する「采女」
博物館のある「采女」という地名も伝承に由来する。采女とは古代朝廷に仕え、天皇の食膳の奉仕をした女官のこと。地方豪族が朝廷への服従を示すため娘を差し出した。

古事記によると、雄略天皇が屋外でうたげを催していた時、この地出身の采女が杯に盛り、この急坂を差し掛か

うつべ町かど博物館 (四日市市)



古事記にも載る「采女」

げたことを天皇が怒り、采女を斬り殺そうとした。ところが非礼をわびて即興で歌った

歌があまりにも素晴らしかったため、天皇は罪を許し、さらに彼女のふるさとの地を「采女」と呼ぶことを許したという。

◆地元愛を感じる博物館
四日市市の内部地区は伝説も多いが、文化財も豊富だ。古くは縄文・弥生時代の遺跡
歌があまりにも素晴らしかったため、天皇は罪を許し、さらに彼女のふるさとの地を「采女」と呼ぶことを許したという。

◆毎週日曜掲載

〈施設案内〉	観覧料	無料
開館日	住所	四日市市采女町3473
	電話	059(347)1224
開館時間		

うつべ町かど博物館のすぐ前を通る旧東海道の杖衝坂